

障害のある児童・生徒一人一人のニーズに応える「特別支援教育」が本年度から全国で始まり、各自治体が体制づくりを模索する中、兵庫教育大大学院（加東市）の柘植雅義教授が全国二十三自治体のユニークな実践事例をまとめた本が、話題を呼んでいる。各教育委員会の担当者自身が執筆した報告に、柘植教授が解説を付け加えており、教育関係者だけでなく保護者にも読みやすい内容となっている。

(霍見真一郎)

四国の水不足解消に役買います。神戸一高
松間を運航する「ジャンボフェリー」(神戸市中央区)は三十八只、船員

香川の水不足解消に一役

東京・日比谷にある昭和初期の名建築が姿を消そうとしている。解体が決まり、市民団体などが保存を求めているが、撤去は時間の問題となっている。一方、近くの丸の内地区では、赤れんがのJR東京駅駅舎の復元工事が始まるなど、伝統的な景観に配慮した再開発が進む。2005

年に施行された景観法は、良好な景観を「国民の共通資産」というが、実際に法が順守されるかどうかは、所有者の意向次第。二つの対照的な動きは、景観の大切さが指摘される中、再開発をめぐる問題点を浮き彫りにしている。

(東京支社・足立 聰)

都心の名建築 保存か撤去か

所有する三井不動産は「老朽化で安全性を確保できぬまでも、解体を発表し、今年五月から工事をスタート。新たにビルを建設する予定だが、「デザインの一部を取り込み、面影を残す方針」とする。これに対し、日本建築学会や日本建築家協会は要望書を同社に提出し、市民団体も署名活動をするなど反対運動が起ころうとしている。

一方、日比谷から一吉足ら
ずのJR東京駅では五月末、
「丸の内駅舎」を一九一四(大
正三)年当時の姿に戻す工事

がスタートした。明治の名建築家・辰野金吾の設計で、第一次大戦の空襲で屋根などが焼け落ちたが、戦後、三階を撤去し、二階建てに。丸いドーム屋根は八角形となつた。

JR東京駅丸の内駅舎の完成予想図



500億円かけ修復へ JR東京駅

三信ビル 解体も「面影残す

強制力のある規制に乗り出す自治体もある。東京都中区は銀座のビルの高さを制限するルールを導入。京都市は屋外広告物の規制を強化した。

しかし、日比谷にはこうした動きは生まれていない。観光法では、自治体が「景観分区」に指定すれば強い規制を働くが、指定には、地元の住民や所有者の同意が必要。『

（後）事業費五百億円は、上限まで使っていない。販賣の容積を、周辺のビルに移転・売却して貯う。

正
文

2

2

む。同地区的地権者やJR東日本、千代田区などは「風格ある街並みは貴重な資源になる」として、まちづくり懇談会を結成。一〇〇〇年、地区全体にガイドラインを策定した。これに沿って、ビルには、低層階に大正や昭和初期の内外装の一部を残すなどの工夫が施され、意がなければ「個々の所有者の意向に任せるしかない」(東京都都市整備局)のが実情だ。市民団体「三信ビルの保存を考える会」の松永健吾代表は「景観法はできたが、法的には拘束力がないに等しい。所有者が保存したいと思える税制上の優遇策もない」と批判する。

309件を売却。

309件を売却。

ニュース
&
ニュース
TOKYO 事実

大阪市は二十七日までに、保有する未利用地計八百五十一件のうち三百九件を、二〇一六年度ま